

2017年度 第4回マージン検討会 議事録

日 時：2017年12月15日（金） 15：25～16：05

場 所：電力広域的運営推進機関（豊洲ビル）会議室A及び広域本番会議室（TV会議）

出席者：

坂原 淳史（北海道電力株式会社 流通本部工務部広域システムグループグループリーダー）
矢口 智（東北電力株式会社 電力ネットワーク本部電力システム部給電グループ課長）
田中 泰生（東京電力パワーグリッド株式会社 系統運用部系統運用計画グループグループマネージャー）
佐藤 幸生（中部電力株式会社 電力ネットワークカンパニー系統運用部給電計画グループ課長）
川島 渉（北陸電力株式会社 電力流通部系統運用チーム統括課長）
高垣 恵孝（関西電力株式会社 電力流通事業本部給電計画グループチーフマネージャー）
牛込 和也（関西電力株式会社 電力流通事業本部給電計画グループ）
杉山 弘幸（中国電力株式会社 流通事業本部系統技術グループマネージャー）
長谷川 隆（四国電力株式会社 電力輸送本部系統運用部給電グループリーダー）
野見山 史敏（代理出席）（九州電力株式会社 送配電カンパニー電力輸送本部電力品質グループ課長）

事務局

竹内 浩（電力広域的運営推進機関 運用部長）
神田 光章（電力広域的運営推進機関 運用部運用技術グループマネージャー）
大川 修司（電力広域的運営推進機関 運用部広域調整グループマネージャー）
堀川 達弘（電力広域的運営推進機関 運用部運用技術グループ）
黒川 剛志（電力広域的運営推進機関 運用部運用技術グループ）
植 洋輔（電力広域的運営推進機関 運用部運用技術グループ）
中嶋 駿介（電力広域的運営推進機関 運用部運用技術グループ）
松尾 工（電力広域的運営推進機関 運用部広域調整グループ）
藤田 利和（電力広域的運営推進機関 運用部広域調整グループ）

配布資料

資料1：2017年度 スケジュール・検討事項

資料2：翌年度以降分マージン算出にあたっての検討課題

議題 1：2017年度 スケジュール・検討事項

事務局から資料1の説明後、議論を行った。

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

○：年間断面については現行ルールで算出し、長期断面は間接オーケション導入後の新ルールに基づき算出するとあるが、間接オーケションの導入時期は決定しているのか。そうであれば、間接オーケション導入後分のマージンの算出は不要ではないか。

●：システム都合もあり年間策定は通常通り2年間分を策定するため、その期間のマージンの値が必要となる。算出をよろしくお願ひしたい。間接オーケション導入は、現状では2018年度下期の早い段階を目指しているが、まだ確定はしていない。

議題 2：翌年度以降分マージン算出にあたっての検討課題

事務局から資料2の説明後、議論を行った。

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

○：P. 2の記載方法案では、「参考：実需給断面において予備力不足によりマージンが必要となった場合の最大値」を記載する案であると思うが、この参考値は今後公表されるのか。

●：2月開催のマージン検討会の資料として公表するつもりである。

○：広域システム上の長期の値としては表れないということか。

●：そうである。広域システムはマージンの値を2種類設定することは出来ない。

○：システムに入力出来ないとしても、マージン検討会の資料として公表するだけではなく、予見性の観点から2月末に広域機関のHPにて公表する必要があると認識している。

●：マージンの確保理由については、新ルール適用後は、「実需給断面におけるマージン設定の考え方」に基づき長期・年間のマージンを設定することになるため、現状の実需給断面における確保理由をベースに、現状の長期・年間に記載がある内容を赤字で追記している。

●：北海道本州間連系設備の順方向について、東京エリアの期待分のマージンは、長期・年間断面の確保理由には記載がある一方で、現状の実需給断面の確保理由には記載がない。実需給断面の確保理由にも記載が必要と考えるがいかがか。

○：これまででは、長期で設定したマージンをベースに実需給断面のマージンを減少していたので問題なかったが、新ルールにより「実需給断面の確保理由」しかなくなるのであれば、提案通り記載が必要と考える。

以 上